

## 帰国生入試の「総合」の例題提示について

Bコースの「総合」という考查科目は、本校として初めて設定するものです。「総合」は、人文・社会的なテキストを読み解きながら主に論述問題に答える「総合①」と、自然科学的なテキストを読み解きながら主に論述問題に答える「総合②」の2問からなります。「総合」の試験時間は60分間です。

「総合」という考查科目では、どのようなテキストが選ばれ、どのような設問が用意され、答案をどのような基準で採点するのか、受験生の皆さんは不安に思われることでしょう。そこで、今回は「総合①」の例題と論述問題の採点基準をお示しします。これによって「総合」の考查のイメージをつかんでいただければ幸いです。

# サンプル

## 中学校 帰国生入試 入学考査問題 (総合①)

(その1)

問題 次の文章は、毎日新聞社東京運動部の大矢伸一記者の署名記事「朝青龍に美風を汚された大相撲だが」(毎日新聞2010年2月25日付け)の一部です。これをよく読んで、あとの問いに答えなさい。

大相撲の第68代横綱・朝青龍(29)が今月4日に引退した。初場所開催中の1月16日未明、東京都内で泥酔して知人男性に暴行したとされる問題の責任を取った形だ。モンゴル出身初の横綱は数々の騒動で品格を問われたが、その強さと影響力は圧倒的だった。大相撲担当として取材した私は、朝青龍の登場で相撲との向き合い方が変わった。今や「国技」がどうか「日本人力士」がどうか言っている場合ではない。大相撲は世界のアスリートによる国際的格闘技を目指すべきだ、と改めて思うのである。

朝青龍が初の幕内優勝を果たした02年九州場所から、歴代3位となる25回目の優勝を遂げた今年初場所までの44場所のうち、日本人力士が優勝したのは5場所。06年初場所の栃東(元大関)を最後に、外国人力士が24連覇中だ。

近い将来に横綱、大関が外国人で占められる日が来るかもしれない。テニスのウィンブルドン選手権で地元・英国選手が優勝できない「ウィンブルドン現象」が大相撲で起きている。そのきっかけを作ったのが朝青龍。モンゴルの先輩に続き、第69代横綱に昇進した白鵬や大関・日馬富士、さらにはブルガリア出身の大関・琴歐洲らが次々と賜杯を手にし、国技の主役は外国人たちが担っている。

言葉や習慣の違いを乗り越えて出世する外国人力士に対し、優勝争いや昇進レースに加われない日本人力士。「相撲は日本人が取ってこそ絵になる」と考えていた私も、現実を目の当たりにして考えを改めざるを得なかった。

21世紀の大相撲は、米大リーグや英国・イングランドにおけるサッカーのプレミアリーグのように、各国のトップ選手が集うプロスポーツに生まれ変わるべきだ。日本人を応援しても構わないが、国際化の時代。国籍を問わず、世界一流の力や技、スピードを楽しめばいいではないか。

相撲協会は23日の理事会で現行の1部屋1人の外国人枠を厳格化することを決めたが、時代に逆行していると思う。外国人枠は撤廃し、スカウト網を世界に広げるべきだ。加えて力士の待遇を向上させれば、世界中から我こそはという力持ちやテクニシャンがやってくるだろう。

ただし、ここが重要な点なのだが、外国人にも日本の伝統、相撲道をしっかり守ってもらう。単なるスポーツではなく、古い歴史に基づいた神事という視点を持つ。「相撲の心を理解して初めて力士と認められる」という理念を徹底させるのだ。

そのためには、協会は外国人力士の指導に抜本的に取り組む必要がある。部屋制度を続けるにしても、親方丸投げの指導には限界がある。新弟子が半年間通う相撲教習所に、外国人コースを設けてはどうか。そこで、力士の心得から、土俵上の所作に込められた意味の一つ一つに至るまで学ばせる。協会専属の通訳を雇い、外国出身の元力士などにも協力してもらう。卒業前には日本人を含めて相撲道に関する試験を課し、不合格の場合は追試に合格するまで卒業させず、本場所の土俵にも上がらせない。そのくらいの厳しさがあっていい。

相撲協会の運営上、外国人指導の重要度が増していることは、朝青龍の引退劇が雄弁に物語る。本場所中に飲み歩いて、けいこ場に現れず、最低限の務めを果たさなかったばかりではない。土俵上でガッツポーズをして「礼に始まり礼に終わる」相撲の美風を汚した。敗れた後に「どうして物言いをつけないんだ」といった表情で審判委員をにらみつけ、「潔さ」を踏みにじった。確かに朝青龍は別格の存在だった。だが、他の看板力士にも、疑問符を付けたくなる言動が散見される。

白鵬は先月末、暴行問題の渦中でまだ処分も出ていなかった朝青龍について「本当なら心配」「(被害者に)謝るだけ」などと発言したが、後輩としては発言を控えるのが妥当だったと思う。琴歐洲は14日に都内で結婚披露宴を行ったが、招待された二所ノ関一門のある親方によると、1週間後に別の会合で顔を合わせた時にあいさつされなかったという。両力士とも普段は比較的礼儀正しいだけに、外国人指導の難しさを感じる。

外国人力士に限らない。琴光喜は昨年の九州場所、黒星を喫した日に支度部屋で笑いながら携帯電話を手に食事の約束をしていた。あまりにも緊張感を欠く行動だった。看板力士の緩みは下位にも伝染する。上位相手に平気で張り手を見舞ったり、花道から土俵に向かうタイミングが上位に遅れたり……。礼を失した所作は枚挙にいとまがないのが、現在の相撲界だ。

(その2)

相撲道には礼節、謙虚、潔さといった日本人が大切にしてきた、人としてのあり方が込められている。その相撲にあこがれ、角界に飛び込んでくる若者たちがいる。日本人であれ外国人であれ、相撲文化の担い手としてきちんと育てることは、すべての相撲人の責務であると思う。

問1. 次の文章(1)～(4)について、本文の内容に合うものについては ○ を、合わないものについては × を、それぞれの解答欄に記しなさい。

- (1) 2002年の九州場所から2010年の初場所までの間で、外国人力士が優勝したのは39場所である。
- (2) これまで外国人力士は各相撲部屋に1人ずつしか在籍していなかった。
- (3) 相撲教習所での教習を終えたあとの外国人力士の指導は、原則的に力士が在籍する相撲部屋の親方に任されている。
- (4) すべての新人力士に対する教育の方法を、見直すことが必要である。

問2. (1) 大矢記者は、相撲界が目指すべき方向として二つのことを提案しています。その一つは、「世界のアスリートによる国際的格闘技」を目指すという方向です。では、もう一つの方向はどのようなものでしょうか。解答欄に記しなさい。

(2) (1)で示したように、大矢記者が、大相撲は「国技」としてのあり方を守るのではなく、「世界のアスリートによる国際的格闘技」をめざすべきだと主張したのは何故でしょうか。解答欄に記しなさい。

(3) (1)で示した二つの方向を実現するために必要な手だてはそれぞれ何でしょうか。大矢記者が主張することを、解答欄に記しなさい。

問3. 下線部について、ある国が世界各国からトップ選手を集めてプロスポーツに取り組むとしたら、その国のスポーツ界にはどのような影響が生じるでしょうか。また、トップ選手の出身国のスポーツ界にはどのような影響が生じるでしょうか。それぞれ、あなたが思いつくプラスの影響とマイナスの影響を、それぞれにふさわしい例を挙げながら解答欄に記しなさい。

《論述問題の採点基準》

- 問2 (1) ① 日本の相撲道の伝統をしっかりと守ることを記しているか？  
② 「相撲道の伝統」がどのようなものかを、具体的に説明しているか？
- (2) ① 大矢記者が主張する「世界のアスリートによる国際的格闘技」がどのようなものなのか、適切に説明しているか？  
② 大矢記者が「世界のアスリートによる国際的格闘技」を主張した根拠を、適切に説明しているか？
- (3) ① 「国際的格闘技」の方向を実現する手だてを具体的に指摘しているか？  
② 「もう一つの」方向として、相撲道の伝統を守っていく手だてを具体的に指摘しているか？  
③ 指摘箇所が複数あるなど、十分な指摘になっているか？
- 問3 ① 世界各国からトップ選手を集めた国のスポーツ界への影響として、プラスの影響を具体的に説明しているか？  
② 世界各国からトップ選手を集めた国のスポーツ界への影響として、マイナスの影響を具体的に説明しているか？  
③ ある国にトップ選手を奪われた国のスポーツ界への影響として、プラスの影響を具体的に説明しているか？  
④ ある国にトップ選手を奪われた国のスポーツ界への影響として、マイナスの影響を具体的に説明しているか？

